

## 「ペトロの否認」

2015年12月28日

ルカによる福音書 22章 54節～62節。人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて従った。人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座っていたので、ペトロも中に混じって腰を下ろした。するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座しているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

エルサレム神殿当局は、作り上げてきた宗教体制を壊す危険人物と見なした主イエスの捕縛をユダの手引きによって、民衆のいない、真夜中のオリーブ山で成し遂げた。彼らは最初に大祭司の中庭に連行した。時は、3月の終りか4月の始めである。夜は冷え込むのでたき火がたかかれていた。ペトロは、主イエスが捕縛された時、剣を振りかざしたが、怖くなり逃げた。逃げた自分に驚いただろう。しかし、主イエスのことが気になるのは当然で、遠く離れて、連行する人々の後を追った。そして、大祭司の中庭に入り、腰を下ろした。たき火の明かりがペトロの顔を照ら出した。すると一人の女中が、ペトロの顔をじっと見て、「この人も一緒にいました」と言った。ペトロは慌てて打ち消し、「わたしはあの人を知らない」と応じた。しばらくして、他の人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と指摘した。ペトロは、「いや、そうではない」と反論した。一時間ほど経つと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。ユダヤの住民から見れば、ガリラヤ人の風貌や言葉遣いは判別できる。ガリラヤからの宣教団の一員と見抜かれた訳である。ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言い抜けた。否認の言葉を言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。その時、縄に括られ、裁判を受けようとしていた主イエスは振り向いてペトロを見つめられた。主イエスはどのような目でペトロを見られたのだろうか。その主イエスの顔をペトロはどのような思いで見ただろうか。主イエスの目は決して、突き放した裁きの目ではなかっただろう。大丈夫だよ、立ち上げられるよという慈しみの目ではなかったか。その目を見たペトロは即座に、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた言葉を思い出した。つい数時間前、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と信従を豪語した。勇敢で、律儀だったペトロは挫折した無残な自分の姿に気づいた。裏切りを予告された主イエスの言葉を思い出し、外に出て、一人激しく男泣きした。

ペトロの三度の否認は、誰もが理解できる。火の粉が降りかかれば、我を忘れて振り払う。福音書は、人の弱さを率直に描き出している。ペトロは自分の意志と力で主イエスに命を賭して従えると自負していた。彼は復活の主イエスに出会い、神から立たせられていることを知った時、真に立つ者に変えられた。その姿を使徒言行録は伝えている。